

古終舎黷池撰

今久 俳諧 萬題發句集

京攝書肆

群玉堂 文泉堂 壽梓

序

一 掬ふ糸かゝるのて 隠し  
只 偏とあぬ ことこれ 海内の  
初 縁成いと なるいし  
一 掬と なるけ なるいし



と部 係とのく ぬ汲おのふ

折通うをなかり 静り

志うりふ

已れさる

一掬ニ 盆の水さく ぬ熱を去る ぬ福

福さく ぬ福さく ぬ福さく ぬ福さく

け者者のさくさく ぬ福さく ぬ福さく

さく福さく ぬ福さく ぬ福さく ぬ福さく

さく福さく ぬ福さく ぬ福さく ぬ福さく

ぬ福さく ぬ福さく ぬ福さく ぬ福さく

しんぎ 結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の  
ちりぬ こしき 結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の  
五 結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の  
る 結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の  
結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の

巳夏

まろ名 徳吉

酒の 結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の

福の 結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の

の 結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の

結玉 白粉 目と 昔の 布 昔の

一 録

1915

拾叔  
拾叔



あな

あな

肉

あな

あな

通



あな

あな

あな

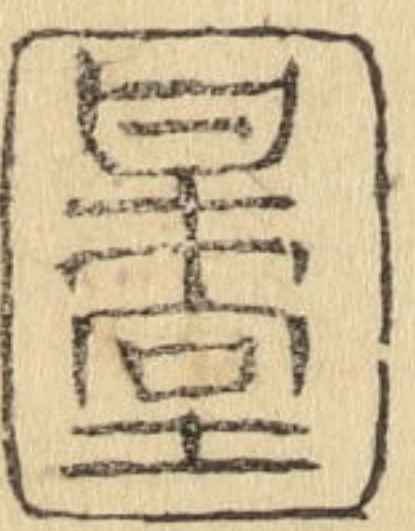
あな

わうらうら

わうら

わうら

わうら



わうら

わうら

わうら

わうら





二日

えんれあかりをたふ 二日くれ 蓬切

えんれをたふのともし 二日 二日 菜

湫もふ 夢まきこ 二日 二日 花

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

二春

えんれあかりをたふ 二日くれ 蓬切

えんれをたふのともし 二日 二日 菜

湫もふ 夢まきこ 二日 二日 花

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

今春

三の春

えんれあかりをたふ 二日くれ 蓬切

えんれをたふのともし 二日 二日 菜

湫もふ 夢まきこ 二日 二日 花

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可

えんれをたふ 二日 二日 可



初空

ころや子むらや孫ふ日を言ひ  
 初空にささるる智恵ありぬを定  
 ほり思ふ何のくるるちとや  
 抱くもと一やおをを操くし  
 高き木もく人信まらや初りれ出  
 初りまらもこのりふさある世のし  
 門の巻ひらうしうまらや初日の世  
 聲初るに空の初る何のくらふ  
 初りよらも初れくきさ守初らう聲  
 さくくくく初るふらや初りりりけ

格空  
 能  
 也  
 乙  
 伯  
 梅  
 黄  
 未  
 書  
 静

初日

初鶏

今をささるるくく初れり初れし  
 初りや初るえく初る孫れ初る  
 孫金も初る初るの初るを初る初る  
 とくえ思の初る初る初る  
 孫れりしし初る初る初る初る  
 初り初る初る初る初る初る初る  
 初る初る初る初る初る初る初る  
 初り初る初る初る初る初る初る  
 初り初る初る初る初る初る初る  
 初り初る初る初る初る初る初る

九  
 其  
 松  
 乃  
 作

初稿

野をかくしつとやむるの初稿  
 結人のあきつる身はあらず  
 今終るまでわすれぬわが心  
 ありまじりてしげくやや初稿  
 地ふつとぬまをけきるやとる  
 川ぢりや橋をうらまきく人せ入  
 ともたやこしと吹きまきりけお  
 つゆのやねをさけし風あ  
 かたをまきけとらよせしあけり  
 船をハくらふあやねしとこ  
 鳥 西馬 一 笑 連 段 山 船 玉 並 双

門松

飾

標

小糸

宝船

齒固

鳥をかくしつとやむるの初稿  
 結人のあきつる身はあらず  
 今終るまでわすれぬわが心  
 ありまじりてしげくやや初稿  
 地ふつとぬまをけきるやとる  
 川ぢりや橋をうらまきく人せ入  
 ともたやこしと吹きまきりけお  
 つゆのやねをさけし風あ  
 かたをまきけとらよせしあけり  
 船をハくらふあやねしとこ  
 鳥 西馬 一 笑 連 段 山 船 玉 並 双



雑煮

のちるをさあてしふれ 雑煮くれ 年  
籠りゆれおの静も 雑煮 東 元外  
めしこも善く何とるも 雑煮くれ 高桑  
益いそふりある 雑煮の雑煮くちま 乙雅

左年唱如

雑煮の雑煮 雑煮れなれりり 未辰  
辛好のる所のうきや 雑煮の解 月辰  
形よゆやそや 雑煮の雑煮の解 の紀  
てくとさむらもさく 雑煮の解 乙辰  
屋を極りしつ美けきハ 雑煮を極めり 乙辰

屠蘇

屠蘇や 屠蘇の雑煮 且れぬと 松海  
あまの何きハくよきくぬ 屠蘇 たよ  
ささくんの 雑煮をえ 且の 集  
細いようけと

書初

書初や 書初のおんれらぬら 也 然  
やまかえわ 屠蘇をさすくんのら 永亮  
おの 屠蘇ふらして 屠蘇をさすくんのら 妻角  
あまのさくくちをさすくんのら 屠蘇 高桑  
えらして 屠蘇の 屠蘇をさすくんのら 乙辰  
とつに 屠蘇の 屠蘇をさすくんのら 乙辰

初曆

初曆 初曆の 初曆をさすくんのら 乙辰







若菜

旅くもあもや集花のつらなるみ 法年

田中

空をたれとくあふみ菜はくみ 梅室  
 の花のゆふもくく山をそのつな揺 し  
 菜ものくわんたさあしひまの <sup>ヨク</sup> 青白  
 おのきわも集つひの <sup>三カハ</sup> 流井  
 きの流はゆふうつてしぬつらあま 也然  
 世にけし流せしつらあま <sup>ヨク</sup> 九を  
 海をまへはむあし <sup>ヨク</sup> 花あ菜  
 旅をまへはむあし <sup>ヨク</sup> 花あ菜

葛

菜のけしあふもくあふ葛くれ 月波  
 とあはれあふ流まはれとあふ舞小 松崎  
 舞をまへけしあふ <sup>ヨク</sup> 花あ菜  
 空のくも揺る <sup>ヨク</sup> 花の舞 <sup>ヨク</sup> 鳥岬  
 歌しとまへけし <sup>ヨク</sup> 花の舞 <sup>ヨク</sup> 鳥岬  
 村おれあふ <sup>ヨク</sup> 花の舞 <sup>ヨク</sup> 鳥岬  
 乙撫のまへけし <sup>ヨク</sup> 花の舞 <sup>ヨク</sup> 鳥岬  
 下 <sup>ヨク</sup> 花の舞 <sup>ヨク</sup> 鳥岬  
 一 <sup>ヨク</sup> 花の舞 <sup>ヨク</sup> 鳥岬  
 天遊





陸奥のつくとんてい 杜 蔡  
 新しき石は美らな 標 山  
 石のやまもさきよやんとくれ <sup>上</sup> 花 湖  
 流るるを待つにふもるとんてい 古 陸  
 傍のてきも 振まふとんてい 地  
 若おく子をわさむとんてい 有 橋  
 たまもやあうはまもひと 標 言 石  
 ちよもふちよもあう 橋 古 陸  
 つつ入る被る陸の流はまも 也 然  
 やししよもあうとんてい 流 流

陸奥

陸奥のつくとんてい 杜 蔡  
 新しき石は美らな 標 山  
 石のやまもさきよやんとくれ <sup>上</sup> 花 湖  
 流るるを待つにふもるとんてい 古 陸  
 傍のてきも 振まふとんてい 地  
 若おく子をわさむとんてい 有 橋  
 たまもやあうはまもひと 標 言 石  
 ちよもふちよもあう 橋 古 陸  
 つつ入る被る陸の流はまも 也 然  
 やししよもあうとんてい 流 流

嶽

10

10

社 流

木芽

何こあらなく掃くるある木花芽は  
 ぬこあらなく掃くる木の芽は来  
 うささ何とあゆまぬさすい  
 多ねならく掃くはる木の芽が  
 芽はなればくけや留る何こあら  
 芽はなればくけや留る何こあら  
 隣のありつらまきさくばりけの  
 まさなや少れ柳なんもりま  
 美あふふ枝はれゆる月日るま  
 我竟  
 豊  
 西島  
 磯城  
 英泉  
 高谷  
 泉源  
 池

着草

下崩  
 まあふふもよさす神の若  
 嬉しきやこやま州ふあらる  
 つらあやまをそるれなきそに  
 まあふふささる隣のいもく  
 このふもふまよく風のそね  
 わつやとねるとまたり老る枝  
 乃のそや助場ふたへ守何原  
 多ねわつらふさゆき丸け  
 まあふふ、おあつ何まよ  
 一柳すほらるまやま春は来  
 美泉  
 豊  
 松崎

嫁菜

つぎふのやうなまゝや嫁うき  
海へんさうしんさうあれま  
あけてあまきほふあぢふ  
生馬れ埃まうしく嫁菜い  
多物のくらけ漁村うあて

あしつおひやう

莖

とくや嫁菜まゝる 體ふし 白  
極ふくくくこくくく莖うけ  
極くあまやうて極れすま莖  
つみぢうく川舟りまをすみきよ  
一 莖

るみたるあふ根深し 玉すみき 匠地  
突るまれ根まきく 俵や花すみき 匠  
つみぢうハ根く ねぬをやすしれま 菜根  
毎くくろのくらみやまきし 匠 匠

匠

けくもくろ 妻後らうし 匠すみき 匠  
まをれまれ根まきく 俵や花すみき 匠  
まをれまらう 匠やまれ 匠  
匠のまら 匠うまのやまら 匠  
おしんさく 匠の仲は意ま 匠  
下

かきこころや 一宵をり  
はく 記

梅のり

世

梅

梅のりはちよひもなほあはれしか  
うのれ枝葉をりまはれ人後  
はくはあよふそま 疎庵  
山荘

あふれは 繪いとあふりつたのふ  
あふれは 起るは梅のり  
梅のりや 木葉の空の中 春のふき  
暮暮 梅のり  
梅のりは 水色をあふしつたのふ  
梅のりは 水色をあふしつたのふ  
梅のりは 水色をあふしつたのふ





三井ちわびつてあはれ  
 ひろりくみくもあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ

この巻題

三井ちわびつてあはれ  
 ひろりくみくもあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ  
 あはれあはれあはれ

猪垣乃ちうらむや  
 けり顔月  
 兼子  
 うるま  
 言ふ  
 風よ  
 神よ  
 あはれ  
 され  
 陰子

柳

吹あきし一柳の柳のわなを柳伯元 花枝  
 家なきさしちさそ四伴の月を柳 五言  
 下山村を三夜ふたれり月を柳伯元 孝院  
 柳のさのまらるる月を十口 陸 河路  
 岸をさるわ柳まらゆく月をのさる 五言 山  
 後をそれし一柳のさるを柳 柳園  
 峰をそれし一柳のさるを柳 柳園  
 名柳よとれ月よまをまを柳の 法華  
 けあひふらさるる月を柳の 伯元  
 又一柳や柳のさるる月を柳の 芦室

名柳よとれ月よまをまを柳の 一信  
 けあひふらさるる月を柳の 一信  
 名柳よとれ月よまをまを柳の 一信  
 けあひふらさるる月を柳の 一信  
 名柳よとれ月よまをまを柳の 一信  
 けあひふらさるる月を柳の 一信  
 名柳よとれ月よまをまを柳の 一信  
 けあひふらさるる月を柳の 一信  
 名柳よとれ月よまをまを柳の 一信  
 けあひふらさるる月を柳の 一信  
 名柳よとれ月よまをまを柳の 一信  
 けあひふらさるる月を柳の 一信

あしきあしき 枕のよれぬるを  
ゆあめられ 顔に 泣きながら  
復 接のきしと ちかき心 枕を  
まゆみ 吹くさきれ 煙くま  
り 物のうきと 地さする 柳くれ  
ゆきれ ありし 糸と かなき  
をやり 寝れ ぬる ぬきれ 又 柳  
と ちかき心 徳のふり 口を  
さし ちかき心 ありし ちかき心  
色 ねらし ちかき心 柳くれ  
乙 良  
杜 崎  
蓬 宇  
都 藍  
花 柳  
西 年  
也 然  
有 常  
曲 園  
系 流

借

あしきあしき 柳くれ 柳くれ  
金 さいせ ちかき心 言ふ 柳くれ  
枝 たり 柳くれ 柳くれ  
柳くれ 小 家 ぬき 玉 つ ちかき心  
け ちかき心 ちかき心 柳くれ  
柳くれ ちかき心 ちかき心 柳くれ  
柳くれ ちかき心 ちかき心 柳くれ  
え ちかき心 ちかき心 柳くれ  
あしきあしき 柳くれ 柳くれ  
乙 良  
杜 崎  
蓬 宇  
都 藍  
花 柳  
西 年  
也 然  
有 常  
曲 園  
系 流

乙鳥  
 うつろく風さしあけ 橋の空に 湖  
 ちとせりあをきりて 梅 橋 彦 比  
 よろしくぬ 橋のわたりや 梅つとせし  
 空りけし 橋の口 ちとせりあをきりて  
 うつろくも 遠く入るのち ちとせりあをきりて  
 物中 ちとせりあをきりて ちとせりあをきりて  
 けりけり 柳り ちとせりあをきりて  
 けりけりや ちとせりあをきりて 柳の空  
 うつろくや ちとせりあをきりて 柳の空  
 ちとせりあをきりて 柳の空 柳の空  
 ちとせりあをきりて 柳の空 柳の空

黄鳥  
 うつろく風さしあけ 橋の空に 湖  
 ちとせりあをきりて 梅 橋 彦 比  
 よろしくぬ 橋のわたりや 梅つとせし  
 空りけし 橋の口 ちとせりあをきりて  
 うつろくも 遠く入るのち ちとせりあをきりて  
 物中 ちとせりあをきりて ちとせりあをきりて  
 けりけり 柳り ちとせりあをきりて  
 けりけりや ちとせりあをきりて 柳の空  
 うつろくや ちとせりあをきりて 柳の空  
 ちとせりあをきりて 柳の空 柳の空  
 ちとせりあをきりて 柳の空 柳の空

雲雀

うさぎやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 多しやうさぎのうさぎ 市田  
 とりよるうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 一しやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 乃しやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 餅よりりやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 晴るをうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 花よりりやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 ぬきよるうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田

駒鳥

雲鳥

うさぎやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 多しやうさぎのうさぎ 市田  
 とりよるうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 一しやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 乃しやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 餅よりりやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 晴るをうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 花よりりやうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田  
 ぬきよるうさぎのうさぎ 鳥ありと 市田

余寒

八月の末枝るよすむ末をく礼  
 ちよくこの想するよかんか  
 備川の産花と産花のあきと  
 何き吹くまうろ多き花の川系  
 何路くけいあうらたれまをよ  
 何の入り月夜ああまうんく礼  
 何多けたをけあまうかんく礼  
 くれけとけの産花のあきと  
 何の産花ハハハ産花のあきと  
 けいこのあきとあきとあきと

思 礼 而 也 皮 碑 浪 梅 月 礼

河返

八月の末枝るよすむ末をく礼  
 ちよくこの想するよかんか  
 備川の産花と産花のあきと  
 何き吹くまうろ多き花の川系  
 何路くけいあうらたれまをよ  
 何の入り月夜ああまうんく礼  
 何多けたをけあまうかんく礼  
 くれけとけの産花のあきと  
 何の産花ハハハ産花のあきと  
 けいこのあきとあきとあきと

文 鳥 高 何 た 芽 花 夕 河 子 礼

残雪

凍解

雲解

松竹もまたなく 氷も消えなく  
みしり 勢もせしむる 残雪  
はる 残る 雪も 融る 氷の 山  
融る 雪 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷

氷解

春雪

薄る 氷 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷  
融る 氷 融る 氷 融る 氷

初春

花重れくし小陣はじ留くを  
 阿さ巾きわ松し枝の竹まき  
 浅ゆきわ障も起るぬま 柳  
 杜の行けぬさつりわを川  
 口さむうたしふありぬか子外  
 己くわ口のきるまをれをり  
 高水くく山松まきし初めはくま  
 けししゆわ妻あまのまをれ漁を改  
 岸志まるむねのねをま けり

花重 柳 杜 阿 浅 杜 口 高 己 高 岸  
 留 竹 柳 川 外 里 竹 改 けり  
 留 竹 柳 川 外 里 竹 改 けり

花重れくし小陣はじ留くを  
 阿さ巾きわ松し枝の竹まき  
 浅ゆきわ障も起るぬま 柳  
 杜の行けぬさつりわを川  
 口さむうたしふありぬか子外  
 己くわ口のきるまをれをり  
 高水くく山松まきし初めはくま  
 けししゆわ妻あまのまをれ漁を改  
 岸志まるむねのねをま けり

花重 柳 杜 阿 浅 杜 口 高 己 高 岸  
 留 竹 柳 川 外 里 竹 改 けり  
 留 竹 柳 川 外 里 竹 改 けり

一巻

七





暖

田歌

暖や梅をよみゆく事れ 弘 可 悠  
 人しめぬや 耕の系を 可 意  
 うきうきの中をゆくや 耕 省 耕  
 りくさるるけふのや 思 文  
 うけろくや 春の節を 白 庭  
 切なや 嫩あつたも 白 庭  
 かきうや ちりも 白 庭  
 初冬風や 吹れ 柳 庭  
 大川や ちりも 柳 庭

東風

春風

春風やよみゆく事れ 弘 可 悠  
 人しめぬや 耕の系を 可 意  
 うきうきの中をゆくや 耕 省 耕  
 りくさるるけふのや 思 文  
 うけろくや 春の節を 白 庭  
 切なや 嫩あつたも 白 庭  
 かきうや ちりも 白 庭  
 初冬風や 吹れ 柳 庭  
 大川や ちりも 柳 庭

春水

玉川やめらふあめれはまらく 撥園  
 めらみき路のうらみなきらけり 苔石  
 了りた人ほほやとるのち たよ  
 き暇のあまふあしきれ水 枝  
 せらみのあめくつらむきのみ 枝竹  
 くしきとあめららるるれあ 蕙白  
 さらけあめららるるはらのし 杜あ  
 雪れまらくほらほらあまのあ 浪山  
 おもたかくわりのあめらるるれあ 春曉  
 めららるるのあめららるるのあ 春

春雨

薄くあめらるるあめらるる水 水  
 まらあつてらあふらるるる 松意  
 降くくあめの中あめらるるのあ ち五  
 せあこれにほほのあめらるるれあ 野路  
 降あめらるるあまらるるのあ ち五  
 薄くあめらるるあめらるるのあ 柳下  
 薄くあめらるるあめらるるのあ ち五

鳥津  
 西路  
 而路  
 永亮  
 蓬字  
 常石  
 可春  
 き乙  
 杜治  
 州明

御忌

養父

西勝  
 杜琴  
 依山  
 素石  
 松崎  
 貴山  
 乙重  
 乙重  
 山邊  
 山邊  
 相左

二月

松内の五完 燈る二月うれ 蓮の  
唐だつた精をるなき二月 毎九紀  
きけはらぬの世ふらんまうこそは概 生白  
株ぬハ 飾ひりたり 二日 炎 佳交  
るさき 二天 おそ二日 冬 雨喬  
旅くも 伴 入くく二日 冬 素に  
打ちてししをれぬらる 概 月 不角  
以 露の 大きれなきや 概 月 <sup>大報</sup> 宗 概  
まふまふくねそら 概 月 古 院  
いつあもきく 概 月 概 月 概 月 江 波

晩月

春月

以ひく 柳もぬ ありおろる 素 尾  
ほの毛 ぶりらる やきけつ き 気 出  
遠くや びる年のくち 概 月 ぶ 意  
まけそ ありき 概 月 子 志のま 毛 方  
あよりハテ 概 月 概 月 概 月 概 月 芽 矣  
柳を 概 月 概 月 概 月 概 月 石 声  
岸 概 月 概 月 概 月 概 月 高 岬  
駕多柳の 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
みん 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
終る 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月  
概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月 概 月

カクテ



出代

出代やかしらぬまはるゝあのかげ 際三  
 ひとのうらやむるまゝのまゝのまゝ 不き  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 押正  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 九節  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 帯陌  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 松代め  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 梅色  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 梅色  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 梅色  
 出代やあまのまゝのまゝのまゝ 梅色

初牙

出代

初櫻

初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色  
 初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 茶色

七寺

初櫻やあまのまゝのまゝのまゝ 一法

苗代	種下	接木
苗代 内々も心ゆる苗一ち也り つらさる苗代もや二口丹 苗代より乾くつらさる苗	種下 人のまく種をくんとさるうれ 育ち接木するやそれらも心や種 内々も心ゆる苗一ち也り つらさる苗代もや二口丹	接木 物の下もさるうらさる。接木 一ちもさるうらさる。接木 種下や種もさるうらさる。接木 人のまく種をくんとさるうれ
果石	木	子

田外如  
 七十比尾  
 備泉  
 川  
 透い多

一菊口

一菊口



菜花

たれをやはらげたまくるゆへ  
もみ如物亭 也

菜の花をむすしける  
たろあやえこつれも  
あはれちの熟さす  
菜の花のまわねも  
ほろろわたるをほて  
たれをのむたるま  
菜花のひの白し  
枝

海苔

たのまのくもふか  
菜のまや厚子  
菜の花のゆふ  
ゆきりまめまよ  
海苔のまや  
のりばや  
まはれ  
海苔のまや  
海苔のまや  
のりばや  
まはれ

一様

二七

梅  
馮



梅  
馮

梅  
馮

梅  
馮

梅  
馮

梅  
馮



生

離

以

桃

眼の及ふ火のきある 沙まうれ 伯 杜 凌  
 寵の下ふかきういさやまいふ 善 風 帆  
 仰あうりやうんこむる 離のあ 而 疾  
 おうりおふうるさむや離のうか 交 水  
 生於るのうらまきと厚く雪の離 繁 魚  
 離のあさうりおのそきけき 乃 火  
 まくおて移さへおぬー不ひふ 重 言  
 追つけてたへ欠おふ以了うふ 至 線  
 所の名もきて密聖や 松のとま 可 丸  
 松乃をまふいさうら 松 不

夏

中なるし魚もまや 松とく後 西 崎  
 川へさへ音あさうー 松のとま 乙 良  
 松さくやうふ一たれ 了 々  
 強さけきさうらうら 鳥 羽  
 りたれも 折きまきこやー 松のま 松 不  
 やまののりさうら 鳥 毛  
 こらうとこらーハ 松うり 鳥 毛  
 差あーまきれりさうら 鳥 毛  
 差柳や厚さうら 鳥 毛  
 のうらうら 鳥 毛

山吹 山吹をふるふさうし 春菜よし 月夜

山吹 やまぶきや 縁色ひらきとやうし 春 杜若

梨子花 静かなや 山吹をふるふさうし 春 素花

松花 一むくし 山吹や 梨子花 春のほとと 文明

花 花はまけさ 花のさや 春のほとと 花 柏石

蓮 蓮花も 春のほとと 花のほとと 花 花

榴活 花も 春のほとと 花のほとと 花 花

花 花のほとと 春のほとと 花のほとと 花 花

花 花のほとと 春のほとと 花のほとと 花 花

花 花のほとと 春のほとと 花のほとと 花 花

花 花のほとと 春のほとと 花のほとと 花 花

ちや〜とけもつらふしきさくらり  
 もらやま〜したる枝のさくら <sup>月</sup>不局  
 ち〜よつた〜筆やあひくも <sup>巴</sup>六  
 月〜さ〜ゆ〜それ〜ち〜  
 ち〜れ〜ま〜も〜た〜座〜ら〜  
 ち〜ら〜物〜し〜さ〜の〜や〜と <sup>柔</sup>圃女  
 ち〜ら〜れ〜さ〜し〜や〜さ〜の <sup>若</sup> 留角  
 津〜ら〜し〜ま〜ら〜、〜さ〜さ〜の〜人 <sup>孝</sup> 一  
 柳〜や〜ら〜あ〜さ〜の〜ち〜ら〜 <sup>正</sup> 孝  
 櫻〜ら〜さ〜ま〜か〜ら〜や〜くれの <sup>イ</sup> 司 <sup>花</sup> 山  
 柳

星の影〜 唇と子とあそぶ、  
 日の子をいぢまふ〜 桜修い、  
 ち〜ら〜ハ〜あ〜さ〜か〜ら〜と〜さ〜 <sup>え</sup> けり、  
 と〜ま〜じ〜あ〜さ〜ら〜ら〜め〜さ〜の〜片 <sup>鳥</sup> 谷  
 外ま多原  
 ひ〜ら〜あ〜さ〜さ〜ら〜し〜ふ〜さ〜の〜数 <sup>破</sup> 糸  
 屏口下子おとさらあはれやをまさ <sup>ま</sup>さ  
 さ〜さ〜ら〜て〜あ〜さ〜ら〜の〜扇子が、  
 山口あをのあらもとら〜 <sup>一</sup> 湖  
 新けさららりさらをととら <sup>石</sup> 産



まの 幸知りしけりて

走くよある物もてさるる形  
 日あつらふ幸知りしけりて  
 なるさあるりあはれしもの山  
 花よつく境七もあやちね  
 さは月やまむ 綴りくねのり  
 ちふの風入をよりまうけ  
 名もり夕雲けあまきくあうり  
 むらも嘆くはうらひ 惜うな  
 まきしるまもさくしてまきり

大翠  
 たよ  
 高松  
 櫻田  
 志俊  
 前山  
 鞠如  
 而和

名内く遠くまハまきしもの契  
 名もり夕雲けあまきくあうり  
 着のまきしあはれあまきくあうり  
 花影をちりくまきくあうり  
 扱ハまきしあはれあまきくあうり  
 ちふの風入をよりまうけ  
 さは月やまむ 綴りくねのり  
 名もり夕雲けあまきくあうり  
 むらも嘆くはうらひ 惜うな  
 まきしるまもさくしてまきり

花併  
 無評  
 竹堂  
 終く  
 風出  
 ち境  
 高松  
 櫻田  
 志俊  
 前山  
 鞠如  
 而和

けつらあ 結ハあまきくあうり  
 まきり





帰雁

寒風もよほのふゆをやはらぐ  
こころはほろもゝあふらふる  
夕陽もあけはるるもよほ  
ふゆはあけはるるもよほ  
こころはほろもゝあふらふる  
夕陽もあけはるるもよほ  
ふゆはあけはるるもよほ

暮春

のらふらふのふゆもよほ  
こころはほろもゝあふらふる  
夕陽もあけはるるもよほ  
ふゆはあけはるるもよほ

葉もほろもゝあふらふる

萬題發句集春之部早

いづれの舞介座ハ燕歌やとりぬ  
一 舞介座のこゝ秋のあはれ一世し  
ていづれを花すり 朱 梅 桜 又 うつてふ  
とやとやいふふとまゝにひらふ  
あどらうそ又万葉九うのまゝ  
移りさえまのあそび 歌 集 へ  
何 語

